

に進めていきたいと思ひます。

景観につましましては、もっとやっぱりいろんなご意見もあると思ひますから、皆さんのご意見も聞きながら、庁内でも検討していきたくたいというふうに思ひます。

○大沼 久議長 10番、渋谷佐輔議員。

○10番 渋谷佐輔議員 また戻ってしまひますが、やはり野川の川辺で遊んで、事故に遭ったというふうに、堤防でもしっかりして、あるいは歩く人が結構おられるということになれば、河川管理の面でも効果があるのではないかなと思ひているところだす。そういう面で、全体的な中で、ひとつ無堤地帯解消に取り組んでいきたくたいと思ひます。

それから、デマンド交通だすが、これ体験乗車してみなければと思ひ私ちよつと体験乗車してしまひました。お客様、結構乗ってしまひました。ところがやっぱりお年寄りの方が多かったです。乗りおりのときも運転手がやっぱり一々おりにきて踏み台置いてやったり、運転手の方が大変だと思ひました。また、定期バスでないのいろいろ、コントロールセンターからの指示により動くもんですから、やっぱり運転手さんも大変だなというふうに実感しまひました。また、コントロールセンターというか、指令室というか、これも見させてもらひました。約1,000万円くらい整備投資あったそうだす。ただ、センターに居るのは女の人1人。これも、あそこは飯豊町の社会福祉協議会の管理ということだそうだす。「女の人一人で調整して、運行しているのか」というと、「そうだす」なんていう、なかなか一つのアイデアだなというふうにも思ひました。

また、結構、東北地方を中心にこのデマンド交通システム、盛んに取組まれているというところだす。先ほど市長からあったように、いろんな輸送手段が長井市にはあるわけだすから、その辺の調整というのは大変かと思

ひます。でも将来的に西根バスでもそうだすが、右肩下がり、若干ということだ、経営的にも大変な時期に来るのではないかなと、先ほどありましたが、やっぱり将来的に手段として検討していきたくたいと思ひておひます。

そんなことで、ひとつ今後とも市民の安心安全の地域づくり、まちづくり、市長からよろしくご指導賜りますようお願い申し上げて、質問を終わらせていただきます。ありがとうごさひました。

### 谷口栄子議員の質問

○大沼 久議長 次に、順位7番、議席番号4番、谷口栄子議員。

(4番谷口栄子議員登壇)

○4番 谷口栄子議員 おはようごさひます。6月定例会に当たり、通告しておひます2点について順次質問をいたします。

1点目、オペラ「ゼッキンゲンのトランペット吹き」の上演について質問いたします。答弁は目黒市長、平市民文化会館長にお願ひいたします。

姉妹都市として友好を深めていますドイツのバート・ゼッキンゲン市が舞台となっていると言われる、オペラ「ゼッキンゲンのトランペット吹き」は、バート・ゼッキンゲン市の伝説的な実話をもとでの恋物語だそうだす。日本で初めて、しかもここ長井で初めて上演されることで注目。公演は10月8日と9日の2日間で、会場は市民文化会館だす。市民文化会館の正面外側に公演期日が大きく書かれたポスターが掲げられました。既に市報や薄黄色のA4判のチラシも市民の皆様に配布されておひますが、これだけでは内容がよくわからない人が多いと思ひます。

オペラは、辞書には歌劇と出ています。それぞれの役者がバス、アルト、テノール、ソプラノ、バリトンの音楽で歌いながら、踊りと劇を演ずる。今回のオペラは、日本で初めての公演で、プロの方のみならず、地域の多くの方々に公募で参加を呼びかけられております。公募されているのは合唱で、男声テノール3人、バリトン2人、バス2人となっています。また、若者と女声のソプラノ7人、アルト7人です。さらに、ボランティアで若干名、1つ、宣伝、2つ、衣装、3つ、メイク、4つ、ヘアメイク、5つ、舞台係が募集されています。練習は既に4月19日から市民文化会館で始まっているとのこと。公募の状況は順調に進んでいるのでしょうか。

また、ゼッキンゲン市が舞台となったオペラが、日本の明治期においてドイツで大流行し、日本からドイツに留学した文豪・森鷗外が感激し、帰国後、作品の中に取り入れて紹介されたとあります。

長井市とバート・ゼッキンゲン市は、民間のスポーツ交流から始まり、1981年に長井市バート・ゼッキンゲンクラブが設立され、会員は既に140名もおられるとのこと。日本とドイツはスポーツ少年団同時交流事業で活発な交流が進められていたのです。スポーツ交流がきっかけで1982年、バート・ゼッキンゲン市から15名の公式訪問団が長井市に来市。1983年、バート・ゼッキンゲン市で姉妹都市盟約書の調印式が行われ、齋藤元長井市長は、調印式のあいさつを紋付羽織姿でなされています。齋藤元長井市長を団長に、竹田昭三元議長、ロータリークラブ会長、ライオンズクラブ会長らこのとき19名が参加されておられます。このとき、竹田元議長は、ゼッキンゲン市長へのお土産に私の家から男物の桐げたを買ってくださり、持参されました。そのとき、私の母から、女物の桐げたもあれば奥様にも喜んでいただけるのではと

の話となり、母からのお土産として渡して下さいと差し上げたとのことでした。そのお礼にと、額に入った1枚の絵をいただきました。絵には、川の上に木の橋がかけられて、その脇にマントを着た男性がトランペットを吹いているものです。絵にはバート・ゼッキンゲンと書かれています。名刺も添えられていますが、読めずにおります。絵は、店からも見えるところに飾っており、お客さんと時折話題になりますが、詳しいことは話せませんでした。

私がこの公演に興味を持ったのは先月のことです。教育会の総会の資料をいただき、中を見ましたら、総会後の講演が瀧井敬子先生とあり、今回のオペラ「ゼッキンゲンのトランペット吹き」の公演監督であられる方と知ったからであります。

去る6月3日の総会に続いて、瀧井敬子先生の講演を聞かせていただきました。講師の瀧井敬子先生は、東京芸術大学演奏芸術センターの常勤助手をなされています。プロフィールに、専門分野は19世紀ドイツロマン派及び日本の洋楽草創期、著書に「漱石が聞いたベートーヴェン」、森鷗外訳・オペラ「オルフェウス」、主要訳書として「謎のヴァイオリン」、論文として「森鷗外とオペラ」など多数、そのほか月刊誌、全国紙にも多数寄稿されておられる方です。こうした著書活動と並行して、音楽のプロデューサーとして、みずからの研究成果をジャンル横断的なコンサートの形で発表されています。そして各方面に大きな反響を巻き起こされています。忙しい中、この10月8日、9日、市民文化会館で上演されるオペラのプロデューサーに中心的中かかわっておられるのです。

講演の演題は、「明治17年・森鷗外がドイツへ留学、全てそこから始まるー長井における初のオペラ公演に寄せてー」でした。スライドを使つての講演で、バート・ゼッキンゲン市はドイツのどこにあるのか教えていただきました。

フランスとスイスに近い。スイス側からバート・ゼッキンゲン市の町並みを写した風景、大きな川はライン川だそうです。ライン川にかけられた400年以上の屋根のついた木橋、この橋を渡ればバート・ゼッキンゲン市で、我が家にいただいた絵と同じ風景でした。調印式の会場となったトランペッター城広場や、目黒市長が出席された様子もスライドで見せていただきました。また、このオペラ「ゼッキンゲンのトランペット吹き」が長井で上演されるきっかけは、平成17年4月23日開催の瀧井敬子氏レクチャーコンサート「森鷗外とオペラの夢」東京国立博物館から依頼されたコンサート会場に、ゼッキンゲンクラブの会員が聴きに行ったことから始まると言われております。

瀧井氏が近代音楽研究を行い、さまざまな訳書を発刊されている中に、「漱石が聴いたベートーヴェン」の副題として、「音楽に魅せられた文豪たち」、その帯には「ドイツ留学中にオペラの世界に魅了された森鷗外は帰国後日本で歌劇上演を夢見」、まさに森鷗外が明治初期に留学した先で感激したオペラの一コマであるということです。そして、長井で初演の事業として、日本芸術文化振興会、朝日新聞文化財団から認められた全国区の事業に発展されたと知ったのです。

長井市と姉妹都市ゼッキンゲン市が舞台のオペラ上演、取り組みの決意を目黒市長に伺います。また、このようなきっかけで上演される「ゼッキンゲンのトランペット吹き」を多くの市民の皆さんに見ていただき、大成功させなければと思いますが、いかがでしょうか。

クラブ員の皆様のお力をおかりして、スライドを使ってのゼッキンゲン市のPRを兼ねた、一部の人の取り組みでは券も売れなかったり、券は売れても見てもらえないなどが心配されます。大成功させるための取り組みをお聞かせください。平市民文化会館長にお伺いいたします。

また、本市の宝としての取り組みに対してのもバート・ゼッキンゲン市との長い交流の中で、民間が主導で築かれてきたすばらしい歴史、クラブ員の献身的な努力、オペラ上演のきっかけなどのすべてが長井の新しい芸術と文化の宝であると実感されます。森鷗外とオペラの出会いから、日本で初公演となった記念も含めて、長井の宝として後世にも語り継げるオペラ上演の日を記念日とするなどの取り組みについて、ぜひ検討すべきと思います。

また、今後の交流についてもスポーツを中心に、文化・芸術、さらに、環境、教育、まちづくりなど、幅広い交流を希望いたします。

長井の将来を担う青少年の皆さんの夢の実現にも、ぜひ活発なゼッキンゲン市との姉妹都市交流を大切に守り続けてほしいと思いますが、長井の宝の取り組みとして、また今後のゼッキンゲン市との交流について、目黒市長にお伺いいたします。

次に2点目、新たな観光振興の推進について質問をいたします。答弁は、目黒市長、浅野建設課長にお願いいたします。

去る6月2日、天童市の市民文化会館で、天童市の観光振興を考えるフォーラムが開催され、参加してきました。天童市でも年々観光客が減少し、市街地の天童温泉街にどう観光客を呼び込むか、低迷ぎみの天童への観光の活性化を目指すもので、天童市では天童温泉を訪れた観光客は、1995年、約130万人をピークに減少し、99年の山形新幹線の新庄延伸後も下げがとまらず、2003年度には100万人台を割り込み、99万人に落ち込んでいるとのこと。遠藤登市長も観光を盛り上げるアイデアが続出するようにと期待されてのあいさつでした。

基調講演は「日本一の観光地を目指して」と題して、秋田公立美術工芸大学長の石川好氏で、印象的な言葉は、発想の転換、従来形にこだわらない。山形の温泉は仙台市の奥座敷と言わ

+

れていた、それはすぐに戻れないからだった。今では日帰りができる。IT社会はパソコンを持って仕事を温泉地などで湯に入りながらできる時代である。それぞれにある自然をどう生かすかなど。また、天童市は将棋の町ですが、市民で将棋のできる人は女性を含めどれだけいらっしゃるかなど。また天童から西川方面、山寺方面、蔵王方面へと広域を考えることも大事な課題であると提案されました。

そして、映画「バルトの楽園」が間もなく公開予定の東映・岡田祐介社長から、特別参加されての映画を制作されたときのお話もありました。徳島県鳴門市のロケ村では、第一次世界大戦当時近くに物語の舞台となった鳴門市があります。板東捕虜収容所があったそうです。約1,000人のドイツ兵が寝泊まりをした。兵舎や印刷所、製パン所、食肉加工所、酒場などが見事に再現されて、全国から見学者も多いそうです。1918年6月1日に、この地でベートーベンの第九がアジアで初めて演奏された。ドイツ兵たちが人道主義に徹して厚遇してくれる松江豊寿所長や温かい交流を深めた住民たちへの感謝の思いを込めたものだった。第九は、年末の演奏会が全国でも有名であるが、6月1日の第九の日と定める鳴門市は、記念のコンサートを毎年6月に開催しているそうです。徳島県でも日本とドイツの友好を祝う行事がメジロ押しで行われ、収容所と言われる閉鎖的な場所にもかかわらず、音楽などの文化が花開いたという歴史的な事実を通して、観光を宣伝する。多くの人に知ってもらわないと何も変わらないと岡田氏は語っておられました。徳島県知事に四国4県のみなまつりを提案し、四国4県の祭りを一緒に開催するという企画だそうです。この企画を成功させて、徳島県知事への感謝としたいと話されておりました。映画も地方にとって活性化されるイベントをやらないと人は集まらない。もう一度訪れてみたい発想を持つことが必要で

ある。

北海道旭川の旭山動物園も、一人の園長さんの知恵で、動物が生き生きとしているところを皆さんに見てもらうことで人が来る。東北の人は宣伝が下手だなどとはっきり指摘しておられました。また、その町で交わした人との触れ合いや食べ物、コミュニケーションが大事と話されました。長井市は何で人を呼ぶべきなのか、長井の観光は何かを強く感じてきました。長井には久保ザクラ、大明神ザクラのさくら回廊、また白つつじと黒獅子まつり、あやめまつり、レンボープランの視察、フットパス、長井ダム見学など、どう生かすかにあると思うのです。

ここで一つ、「全国フットパスシンポジウム in ながい」の開催について目黒市長にお伺いいたします。今月の17日、18日に全国フットパスシンポジウム in ながいがタスパークホテル・コンベンションホールで開催されます。フットパス事業は、山形県では最上川流域に地域づくりを結びつけた歩きが主体の観光の展開と流域が一体となった連携を推進し、観光交流人口の拡大を図る目的があります。その主導とする事業が最上川フットパス（歩くことを楽しむための小道）事業として、全国でも初めてのモデル事業として、最上川フットパスながいが、NPO地域づくりの団体、市民の皆さんと行政が一体となって案内看板、サインのデザイン、ルートの設定、ガイドマップの作成、ボランティアガイドなどに取り組み、平成17年6月、川沿いのフットパス事業が完成されたと言われました。長井市の場合、多目的広場の整備が完成し、車を駐車してフットパスを歩くルートが皆さんの人気を受けると思います。もぐり橋に出るルートの道を広くし、土手の階段ももっと広くすべきと思いますが、いかがですか。年間を通してフットパスを散策してもらうため、まだまだ整備が必要に思います。

また、今回開催されるシンポジウムは、多く

の人々との交流を通して、協働、連帯、観光についてを考えるすばらしい企画と思います。事例発表に、リバーツーリズムと地域連携による観光振興の発表もあり、楽しみです。全国からお越しの皆様喜んでいただける2日間になるように祈ります。フットパスシンポジウムが長井の新しい観光振興の活性化を図るきっかけになることを期待します。来年の開催地はどこになるかも含めて、目黒市長にお伺いいたします。

次に2つ目、フットパスの管理について質問をいたします。

6月17日、18日に全国フットパスシンポジウムinながいが開催され、フットパスは年間を通して今後多くの人が散策し、観光地の一つとなります。フットパスの清掃、除草、草刈りなどの作業が大変になってくると思います。一年を通しての対応をどのようになさるのか、今後の管理体制について建設課長にお伺いいたします。

最後に、リバーツーリズムのフットパス写真展について質問いたします。

最上川のフットパスの整備は、1つ、長井市のフットパスのほかに、2つ、フットパスしらたか、3つ、フットパスさがえ、4つ、フットパスおおえがあります。また、米沢市の窪田水辺の楽校、高島町の糠野目水辺の楽校、また、朝日町の朝日地区の水辺プラザ、大江町の大江地区の水辺プラザ、寒河江市の寒河江地区の水辺プラザ、河北町の谷地地区の水辺プラザ、中山町の中山地区の水辺プラザがあります。フットパスはゆっくり歩きながら散策して、道の途中にある歴史、文化、自然、食など、地域の魅力を再発見することにあります。子供たちも学び、遊び、体験を通しての思い出となるところです。写真展はどのような写真展なのでしょう、目黒市長にお伺いいたします。

以上で壇上からの質問を終わります。ご清聴ありがとうございました。（拍手）

○大沼 久議長 目黒栄樹市長。

○目黒栄樹市長 谷口議員のご質問にお答えを申し上げます。

まず、バート・ゼッキンゲン市とは、ご案内のように昭和52年の日独スポーツ少年団の同時交流事業をきっかけとして、スポーツを中心に交流が始まりました。昭和58年9月にゼッキンゲン市におきまして、昭和59年6月には長井市におきまして、それぞれ市制30周年記念事業とあわせて姉妹都市の締結を行い、ことしで姉妹都市締結23年を迎えることはご案内のとおりであります。これまでも長井市の市制50周年などの両市の節目の記念事業に市長以下代表団がご訪問をいただきました。それからヨーロッパ友好都市inながいや日独サマースクール等の交流事業の参加のために、相互に訪問を繰り返してまいりました。長井バート・ゼッキンゲンクラブ及びゼッキンゲン市の長井友人協会を中心とした文化交流、青少年の研修事業、ドイツ語講座の開設など、行政レベル以上に民間レベルで活発に交流が行われてまいりました。民間主体でこれだけ活発に交流があったというのも、特筆すべきことではないかと思います。

最近でも、昨年2人の若者がゼッキンゲン市に行き、うち1人はもう帰国しておりますが、それぞれ料理や語学を学んでおります。向こうからもソニアさんのおいでになって、高校生がおいでになって、お互いに人的交流も活発であります。

ことしはオペラの「ゼッキンゲンのトランペット吹き」を上演したい。そしてその上演にあわせ、ゼッキンゲン市の市議会議員を中心とした訪問団がおいでになると、来市されるという手紙をバイスブロート市長からいただいております。長井ゼッキンゲンクラブのご協力も得ながら、有意義な滞在をしていただけるように、市としても取り組んでまいりたいと思います。

また、オペラ上演直後の11月11日には、ドイ

+

ツのシラー自然演劇団が長井に参りまして、長井ゼッキンゲンクラブとの協力により、市民文化会館で「傷だらけの手」という劇場公演も行われることになりました。

来年度は、ことしがゼッキンゲン市の長井友人協会設立20周年に当たっているとのことでありまして、その記念事業として、来年度に長井市を訪問したいという計画もあるとお聞きしております。市としても受け入れ体制を整えてまいりたいと思います。

これまで、互いに訪問した延べ人数は概数ですが、長井市からゼッキンゲン市に約250人、私もこの7年で2度お伺いをしました。ゼッキンゲン市から長井市へは約350人です。バイスブロート市長、ヌーハー市長からかわられたわけですが、非常に精力的な方でありまして、3日間の滞在、ほとんど、ジョギングが大好きだということで、10キロぐらい、往復20キロぐらい3カ所に行かれたと。どこも自然がすばらしい。それからごみが落ちていない。非常に整備されている。ヨーロッパでもドイツぐらいなもんだと、あるいは世界でもこれぐらい普通の皆さんのいわゆる田舎までこんなに整備されて、あるいはきれいな町はドイツと日本しかないのではないかと、まあこれはバイスブロート市長のお褒めの言葉だったわけですが、そう行って行かれまして、なお自分もぜひまた来たいというふうに言っていたところでありました。

こういった、まさにゼッキンゲンクラブの皆さんが主体となって交流を続けてこられて、人的、文化的、スポーツも、この交流が続いてきた、その一つの大きな成果だと思いますが、このオペラ、オペラといってもやっぱり粗筋がある程度わかっているならば、これは非常に文化的にも長い年月をかけた、世界でも有数の芸術でありますので、これはすばらしく楽しめるものではないかと。貧しいゼッキンゲンのトランペッ

ト吹きとこのお姫様の恋の物語、普通は「ロミオとジュリエット」のようにうまくいかないのがヨーロッパであります、これは成就をするということでもありますので、日本の皆さんからも大変受け入れていただけるのではないかと。この復刻しました楽譜等も、これはもうもちろん、ご指摘のように長井の宝になりますし、この楽譜が今度あちこちで上演されることによって、オペラ界のレパートリーも広がっていくのではないかと。

それから、森鷗外は、ご案内のように夏目漱石と並んで日本の文豪、明治の文豪であります。森鷗外と関係の深いこのオペラが、音楽のジャンルを超えた、森鷗外のお好きな人たちにもさらに広がっていくのではないかと。このことが長井という小都市からある意味で世界に、全国ではなくて世界に向けて発信されるという意義もあろうかと思えます。

鷗外は留学をされたときに、自分の作品に訳詞として載せるほどでありましたから、この本事業は過去のばんどdeオペラ、ながいdeオペラ、東京芸術大学と第九をうたおう、ながいdeオーケストラ、それからOBEクリニック・コンサートなど、これまでやってきた市民の皆さんとの協働事業、音楽文化事業にさらに積み上げられる宝物になりたい、そうしたいというふうに私は思っているところであります。

これまでの取り組み等詳細につきましては、市民文化会館長が出席しておりますので、説明をさせたいと思います。

次に、新たな観光振興の推進の全国フットパスシンポジウムinながいの開催についてであります。6月の17日、18日、今週ですね、開催されます全国フットパスシンポジウムinながいは、最上川流域観光交流推進協議会、この会長、私は、県内の団体の設立総会から私がさせていただいておりますが、これが主催であります。国土交通省山形河川国道事務所と長井市が

共催で開催されます。当協議会は、最上川流域にかかわる27市町村を初め、NPOの皆様、あるいは観光事業者、商工会議所、商工会、観光協会等62の団体で平成16年度に組織をしました。最上川流域観光交流空間づくりモデル事業として、最初に長井市が取り組まさせていただいたものであります。長井市を皮切りに、白鷹や大江や寒河江や、今、続々と少しずつ整備が進んでいるわけではありますが、最上川流域全体のネットワーク形成を目指しております。今回は、全国からフットパスやリバーツーリズムなど、先進的に取り組んでいただいているNPOの皆様、関係機関の皆様との情報公開や交流を通して、最上川フットパスながいを全国にPRすることができる。さらにフットパスによる観光振興を図っていききたいというふうに思っております。

基調講演としてはご案内のように、シンガーソングライターの白井貴子さん、そして全国からその先進的な事例に取り組んでいる皆さんがおいでになります。事例発表としては、多摩丘陵フットパスを振興しております東京都の町田市NPO「みどりのゆび」や、北海道全道フットパスを振興している札幌市のNPO「エコ・ネットワーク」等、既に行政と協働で事業化するなど、各地でも先進的に取り組んでおられます。

今回の開催については、これからでございますが、今回、東京都の町田市長さんからフットパスの連携などについて、一度ぜひ行きたいと言われたんですが、ちょっとどうしても都合がつかないということですので、メッセージをいただくことになっておりまして、町田市や川崎市の阿部市長さんも私は存じ上げておりますので、協力をしながら、全国的なフットパスの組織を設立するなどして、次期の開催にもつなげてまいりたいというふうに思っているところであります。

フットパスの写真展についてであります。このフットパスが17日の午後から18日の午前、このフットパスにあわせて、タス1階の展示ホールにて写真展を行いたいと思います。内容は、最上川フットパスながいとして、最上川、白川、野川の写真を初め、最上川のビューポイント、フットパスしらたか、フットパスおおえ、フットパスさがえの紹介や事例発表される全国フットパス、多摩丘陵フットパス、日本ライン広域観光などの写真パネルの展示となっております。最上川を初め、全国の魅力ある自然やフットパスの取り組みなどの写真展となりますので、ぜひごらんをいただきたいと思います。

なお、当日の基調講演、事例発表の後、そのままホテルで交流会というよりは、できれば、天気が心配なんですけど、夕方、長井を歩いていただきたいと、ご案内をして、美しい長井を歩いていただいて、そして交流会は市民の皆さんからも参加していただいて、屋外で白つつじ公園でやりたいというふうに思っております、この準備は大変なんですけど、NPOの皆さんや若い皆さんにご協力をいただいております。当日、17日の夕方、雨が降らないようにと、神にも祈る気持ちであります。

以上申し上げまして、市民文化会館長と建設課長から補足の答弁をさせていただきます。

○大沼 久議長 平 正行市民文化会館長。

○平 正行市民文化会館長 それでは、谷口議員の質問にお答え申し上げたいと思います。

公募の結果等がご心配でいらっしゃるようですが、概要を含めてお話をさせていただければと思います。

まず、この事業名ですが、オペラ「ゼッキンゲンのトランペット吹き」本邦初演、まあ日本で初めてやるということでございます。10月の8日日曜日、これ1回目でございますが、午後の3時開演となります。翌9日、祝日ですが、午後の2時、1時間繰り上がりまして午後の2

+

時開演。おおむね2時間、1回休憩が入ります。このような時間割りになりますが、8日の前日、7日につきましては、これは一般の方対象ではなくてゲネプロ、かつらから化粧、衣装ですね、全部本番と同じような総合リハーサルを行います。これを午後からの中学生を対象に音楽教室を開催したいという計画でございます。演目は先ほど述べましたが、序幕つき全3幕、こういう中身でございます。

あとキャストにつきましては、声楽家の方、歌手さんが9名、これは二期会からおいでいただけます。マリア、ヴェルナー、男爵等この役柄のある方々でございますけども、9名。あとこの合唱部分で地元の方々が多く入られます。我々の合唱と申しますと、立って合唱する、こういうことではございませんで、振りが入ります。農民役であったり、傭兵役であったり、若者役であったり、こういった役柄を含めた歌入りの振り、非常にやはり難しいことになります。それで公募をいたしましたんですが、長井市では男性8名、女性が8名、山形の方から5名、あとバレエダンスが入ります、2名。あとスタッフとして衣装5名、ヘアメイク9名、舞台2名、あと合唱指導者、地元にはいらっしゃるんです、2名、計37名体制で現在動いてる形になります。指揮者といたしましては佐藤正浩、あと管弦楽は山形交響楽団となります。やっぱり地域のオケで地域の人の入ったオペラをということでございます。あとスタッフとして演出家であり、照明デザイナーであり、こういった方々がほかにいらっしゃいますが、先ほど議員のお名前が上がったとおり、瀧井敬子氏、この方が公演監督でございます。もちろん制作担当、メイク・衣装担当、舞台監督、こういった方々がいらっしゃいます。この方々と一緒に地元が動いていくということになります。

また、この事業の取り回しとして実行委員会組織を立ち上げておりますが、JCさん、会議

所さん等、芸術文化団体以外からもご協力を願っております。実行委員については21名で、事務局員は6名程度です。また事業の追加で増える可能性もございますが、現在はこの部分で進んでございます。

こういったことが概要でございますが、成功させる取り組みにつきましてお話をさせていただければと思います。

まず、基本的な考えを申し上げさせていただければと思いますが、どうもやはりオペラというのは非常に高尚な音楽であって、我々とはかけ離れたところであるのではないかというイメージが大変強いのかなと、私自身も含めて考えております。ですから、このオペラについて、ぜひご理解をいただくことが非常に重要なのではないかなと考えています。それをもとにさまざまなことで動いておりますけども、背広を着ないといけないんだというイメージを壊して、ふだん着で行って楽しく見たい。そうするにはどうするんだということを前提にいろいろ考えてございます。

まず、紙面では、5月号から市報でコラムを書かせていただいております。議員さんもゼッキンゲンのことを深くお知りと思っておりますが、実は私もゼッキンゲンというのは温泉といいますか、クアハウスで有名かと思っておりましたら、このオペラでヨーロッパ中に有名だったと。全くイメージが変わってしまいました。そこにあるトランペッター城ですか、実はこれがシェーナウ城、実はこのオペラは実話でございますので、全部それが残ってるんですね。残ってるというか、それがあってオペラができてると。お祭り広場があったり、もちろんライン川があったり、全部物語にそれが出てきます。こういったことで、非常にオペラでヨーロッパ中に有名になった。それは第二次世界大戦までのことであつたようです。例えばこういったお話をコラムにさせていただいて、ぜひ皆さんに興味を持



っていただければと思って、5月以降ですか、6月も出ましたので、2回書かせていただいております。

あと6月3日、4日、これももう既に終了しましたが、瀧井敬子先生の講演でございます。ここにはやはりゼッキンゲンクラブからご協力を得まして、お話だけではやはり難しい話になってしまうのではと、瀧井先生と協議を重ねて、ゼッキンゲンの中のオペラの本番の、本当の場所ですね。スライドショーでお見せをしながら、お話とともに非常にわかりやすい説明をいただきました。また、森鷗外のことでも、やはり鳥取県ですか、津和野に博物館があります。上野には鷗外荘ですか、いった話も加味しながら、お話がございました。こういったことも市報等で広く市民の方にお知らせできればと考えています。

また4日には、照明デザイナーの方もお見えでしたので、その当日のイメージのデザインをお話いただきました。なかなか濃い質問も出ました。

マーラーという有名な方がいらっしゃいますが、彼もこのオペラを作曲をしています。ところが残念ながら現在は演奏されていません。

また、瀧井先生の部分でございますが、なぜ第二次世界大戦以降ですか、演奏されなかったかというのが、私もちょっと不思議だったのですが、はっきりしました。やはり戦争で大部分のホールですか、歌劇場、爆撃に遭いまして、オーケストラの譜ですか、全部焼失したそうです。ところが97年ごろ、1冊の手書きのオケ譜が発見されたと、こういったことは全部、瀧井先生がお調べになったわけですね。それをもとにパソコンで起こして、長井で本邦初演っていう部分で許可をいただいて、これまでなっていること、こういったお話なんかも考えますと、非常に何か歴史を感じる、深い事業であり、進めば進むほどさまざまな中身が出てくるなと感

じています。現在の所有はドイツのケルンのホールに持っておりますが、先ほど市長もお話しいただいたとおり、作成した完璧なオケ譜については、市の所有になります。ただし、一部はケルンの方にお返しをすることになります。このことは非常に、世界的にもちょっと今、話題になっているようで、一部分かと思いますが、やっぱりケルンのホールであったり、有名などころからの問い合わせが入っているようです。

あと、7月の中旬には本番のポスターとチラシを発行いたします。あらすじを3幕分載せませぬ。それでおおよその筋書きが見えるのではないかなと考えております。

あと、8月の27日ですけども、これまだちょっと本決まりになってないんですが、日経新聞社の音楽の評論家であったり、あと瀧井先生、あと照明デザイナー、やはりオペラのこととか本オペラのこと、照明デザインのこと、あと演出として、演出法でやはりオペラというのはこんなに楽しくなるんだよという、こういうシンポジウムができないかということで、今、案を練っておる最中です。まだちょっと本決まりになってませんが。こういったものをどんどんどんどんやっていきたいなと考えています。

基本的には、本当にふだん着で見れる、楽しむことを前提に、さまざまな企画を立ち上げ、市民に提供したいと思います。以上でございます。

○大沼 久議長 浅野敏明建設課長。

○浅野敏明建設課長 それでは、フットパス関係の質問についてお答え申し上げたいと思います。

先ほど、市長の方から答弁ありましたが、一部ルート整備について私の方からお答え申し上げたいと思います。

(「ビデオ撮影の許可しているのか」

「許可したと言ってください」の声あり)

○大沼 久議長 ビデオ撮影の申請がありましたので許可しております。

○浅野敏明建設課長 フットパスルートの整備につきましても、平成17年度に山形河川国道事務所の事業として、最上川川沿いのフットパスやフットパス案内板の整備を行いました。今年度からまちづくり交付金事業の中で、まちなかのルートの整備に着手する予定であります。

ご質問の、タスの近くの野呂川の飛び石に通じる階段の拡幅等についても、今後、山形河川国道事務所と協議の上、計画していきたいというふうに思っております。

それから、フットパスの管理についてお答え申し上げたいと思います。川沿いのフットパスを整備していただきましたが、その簡易な維持管理につきましては、中央地区については最上川水辺環境整備促進協議会、これは市内の地区が加盟しております、役員に地区長さんがなっております。それから豊田地区につきましては水辺で遊べるわらしっ子広場整備促進協議会に管理をお願いしております。当然、建設課におきましてもお手伝いをさせていただいておりますが、ハード部分については当然、山形河川国道事務所の方からも管理については今後ともお願いしていくこととなります。今後整備されるまちなかルートや新たなルートの維持管理についても、両協議会を中心としまして、我々行政と協働で進めていきたいというふうに思っております。

また、中学生や沿線住民、それから事業所等についても、ボランティアの形でお手伝いをいただいているというような現状であります。

以上であります。よろしく申し上げます。

○大沼 久議長 4番、谷口栄子議員。

○4番 谷口栄子議員 詳しい答弁ありがとうございます。

市長にお伺いいたしますけれども、本市の宝として何か記念にというか、植樹をすとか、記念日を設けるとか、そういうような取り組みとしての予定はないんですか。ゼッキンゲン市

と。

○大沼 久議長 目黒栄樹市長。

○目黒栄樹市長 文化会館からの館長からもありましたように、復刻された楽譜等は、これはある意味では宝物に久しいものであると思います。この楽譜はもちろん長井市だけであと貸さないなんていうわけにはいきませんが、やはりそこを中心に、日本のオペラ界のレパートリーが広がっていくというのは、これはすばらしいことではないかというふうに思います。

記念日は、やっぱりそれは市制記念日とかなんとかということはあると思いますが、これはこれから皆さんのご議論によるものだというふうに思います。

○大沼 久議長 4番、谷口栄子議員。

○4番 谷口栄子議員 ぜひ、ゼッキンゲン市との深い友好もあるわけですので、またそういう意味からも、ひとつここに来ると、このオペラの初上演になったんだということで、全国に発信する、その小都市としての、そういうものをつくれば、新しい観光の目玉になっていくのではないかな。文学の新しい道も開けるのではないかなと思いますので、ご検討いただきたいと思います。

また、先ほど、平市民文化会館長さんからいただきましたお話の中で、7日の日に、当日リハーサルが行われると。これに子供たちもリハーサルに出席をさせていただけるということで、大変うれしく思うところです。やはり子供たちの心をはぐくむ教育の一環として、ぜひとも本物の芸術に触れる機会でも1回でも多くつくっていただきたいなというふうに、そういうふうに思っているところですので、これはぜひお願いしたいと思います。

また、この7日の日は、長井市内の子供たちだけが対象になるのでしょうか、その辺お聞きしたいと思いました。

○大沼 久議長 平 正行市民文化会館長。

○平 正行市民文化会館長 お答え申し上げます。

中学生を対象と、900名ぐらいですか、いますので、席が実は836しかないわけです。ですから中学生以外はちょっと難しいと考えております。また、ゲネプロについては非常に本番と同じような時間の流れでやりますのでやりますので、相当エネルギーを使いますので、1回しかできないんですね。ですから、残念ながら、中学生のみにさせていただきますと思います。

○大沼 久議長 4番、谷口栄子議員。

○4番 谷口栄子議員 浅野建設課長にお伺いたします。

フットパスの整備、まあ整備はできてもやはり野放しになりますと草もぼうぼうになりますし、本当に1週間に1回ぐらい、ちゃんとした手入れが、これから草が伸びますのでなりませんと、フットパスの管理も大変でないかなというふうに思うんです。最上川を河川愛護団体っていうか、掃除をしてくださっている方たちがたくさんいるっていうのは私わかったんですけども、クリーンリバー黒獅子クラブっていう方たちは、建設会社を中心とした方たちのボランティアだとか、それからかなり豊田から白鷹までに含めて長井エリアの中でも、たくさんの方たちがそれぞれの地域で活動なさっていらっしゃる。この方たちの力もおかりして、またいついつ私たちもできますよというような、掃除ボランティアの皆さんにもお知らせをさせていただいて、みんなで一緒に頑張れば、いつでもきれいな、いつでも来てもらっても楽しんでもらえる、そういうルート、フットパスになるんじゃないかなというふうに思うんですけども、その窓口としてどこか必要でないかなというふうに思うんですが、その点いかがですか。建設課長お願いします。

○大沼 久議長 浅野敏明建設課長。

○浅野敏明建設課長 お答えいたします。

おかげさまをもちまして、長井市の河川の愛

護団体についても、非常に数多くの団体にいろいろお願いをしております、活躍していただいている現状であります。いろんな方のボランティアも数多くありまして、窓口を一本化してほしいというような要望があることはお聞きしておりますので、近く市民課とも調整をいたしまして、窓口を一本化させまして、何日にどの団体がどこでそういう清掃活動を行うというのがわかるようにしていきたいというふうに思っていますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。以上です。

○大沼 久議長 4番、谷口栄子議員。

○4番 谷口栄子議員 以上で終わります。ありがとうございました。

○大沼 久議長 以上で一般質問は全部終了いたしました。

## 散 会

+

○大沼 久議長 本日は、これをもって散会いたします。

ご協力ありがとうございました。

午前11時53分 散会